

市民のみなさんからの

疑問にお答えします

地震や災害が起きたとき、どこに逃げたらいいですか？



鳥取市では、公園や公共空地などの広場、小・中学校、地区公民館などを避難場所に指定しています。

避難場所の近くには避難場所を示す案内標示板が道路などに設置してありますので、日ごろから最寄りの避難場所を確認しておいてください。避難するときは混乱防止のため決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切です。特に乳幼児、高齢者など災害弱者といわれる人への対策を日ごろから立てておきましょう。

避難する時のポイント

▽火の元を確かめ、ブレーカーを切断
▽ヘルメットや防災頭巾で頭部を保護

▽携行品は必要最小限に

▽外出中の家族には連絡メモを

▽避難は徒歩で（車などは渋滞で身動きがとれなくなったり退路を断たれる危険性あり）

▽近所の人たちと集団で、最寄りの避難場所へ

▽災害弱者の人たちに声をかけ、避難を誘導

避難するときの持ち物は必要最小限とし、貴重品、非常食品、携帯ラジオ、懐中電灯、応急医薬品その他生活用品（下着、上着、靴下などの衣類、タオル、ティッシュペーパー、雨具、紙おむつ）などを非常用持出袋などにまとめておくときよいでしょう。

問い合わせ先 危機管理課

☎20-3118

因幡万葉 夢幻譚

巻一 大伴家持さん登場



「夢幻譚」の「夢幻」とは、夢や幻のこと。「譚」とは、素朴な言葉で伝説・民話をうたう物語詩やその内容や雰囲気をもつ歌曲または、器楽曲のことである。

今回始まる因幡万葉夢幻譚は、現代から万葉の世界へ旅をする「万葉旅人（私）」が、奈良時代に因幡国守として赴任した万葉集の編者とされる歌人「大伴家持」と、時代を越えて語り合う物語語である・・・。

私は、時空を越えて旅する「万葉旅人」、天平宝字二年（七五八）の因幡の国の大伴家持を訪ねてやって来た。

秋も深まった夕べ。官舎の仄暗い一室には、赴任後間もない因幡国守大伴家持の姿があった。背中越しにのぞけば、後に『万葉集』の一部となる歌日記に筆を走らせている。

「けいけい...」。その時屋外で

何かが鳴いた。人の気配に気づいて家持が振り向き、私は思わず「万葉旅人と申しまして因幡の万葉を訪ねるために未来から来ました」と驚きながら自らを紹介した。

「父「旅人」のような名だな。父は私に家を保てと「家持」、弟には文学を保てと「書持」とハイカラな名を付けたものだよ。四十一歳にもなって、再び地方国守に任ぜられるとは思わなかったが、飛鳥の大和三山のように、東が甕山、西に面影山、南は今木山に抱かれた因幡は良い風土じゃ。さて未来の因幡国はいかがか？」と平成の時からやって来たという私に興味を持ったのか、身を乗り出して嬉しそうに笑顔で聞いてきた。：続く

万葉クイズ

文章中の昔「けいけい」と鳴いた動物は何？

答えは12月1日号です。

（文）因幡万葉歴史館主任学芸員 中山和之